

99

歯根破折が生じた上顎中切歯に対する抜歯後即時インプラント埋入症例

樽味 寿(兵庫県開業)

症例の概要

患者は46歳、男性。本症例は、歯根破折が生じた1]を抜去後、インプラントを即時埋入した。唇側中央の歯槽骨が歯肉縁下8mmの位置にあり、インプラントの埋入方向と深度に留意した。すなわち、口蓋側寄りの起始点から唇側根尖方向にドリリング後やや深めに埋入し、唇側に生じた欠損部には骨補填材料を填塞した。埋入後3年、メタルボンドを装着した同部位は、患者から審美的にも機能的にも高い満足が得られている。

処置内容とその根拠

隣在の天然歯を削りたくないという患者の希望からインプラント治療を選択し、抜歯後の歯肉退縮が極力生じないようにするため即時埋入を行った。上顎中切歯を慎重に抜去した後、直径3.5mm×長さ11mmのインプラントを埋入し、その5ヵ月後メタルボンドを装着した。歯頸部のスキヤロップは左右非対称だが、これは術前からのもので、患者はまったく気にしていない。現在に至るまで歯頸部歯肉に炎症は認められず、デンタルX線写真でも変化はない。



図1 1]が垂直的に破折している。



図2 術前のパノラマX線写真。1]は幼少期の外傷により抜歯になった。

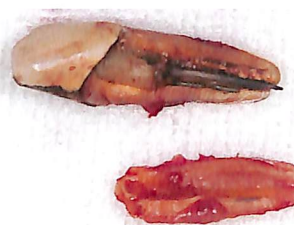


図3 1]は根の中央で破折していた。

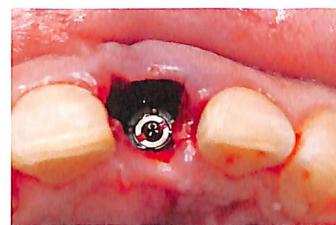


図4 インプラント埋入直後。唇側スペースにはハイドロキシアパタイトを填塞。



図5 同デンタルX線写真。



図6 インプラント埋入後1ヵ月の唇側面観。



図7 メタルボンド装着直後の唇側面観。



図8 同デンタルX線写真。



図9 メタルボンド装着後3年の唇側面観。歯周組織と補綴物に問題は認められない。



図10 同デンタルX線写真。インプラント周囲の骨にも問題は認められない。



図11 治療前の正面観。隣在歯と固定していることもあり、主訴部位の歯肉発赤が著しい。



図12 3年経過後の正面観。インプラント治療部は周囲と調和している。